

令和3年度（一般募集）
美術科・音楽科・書道科への志願者へ

埼玉県立大宮光陵高等学校

美術科・音楽科・書道科の募集人員は40名です。
実技検査の内容は以下のとおりです。

1 実技検査の日程等

	令和3年3月1日（月）	
	午前	午後
美術科	鉛筆による素描	
音楽科	（ピアノ専攻）聴音・専攻	（声楽専攻）副科ピアノ・専攻 （管弦打楽器専攻）副科ピアノ又は視唱・専攻
書道科	漢字の書（毛筆による再現） 仮名の書（毛筆による再現）	

※携行品・・・受検票、筆記用具、上ばき、実技検査に必要なもの

※当日の昼食について

美術科：不要

音楽科：不要

書道科：不要

※急病その他やむを得ない事情により実技検査を受けられないときは、その事由を証明する書類を、出身中学校を経て、当日までに本校校長に提出しなければならない。

※検査が終了するまで途中での退出は認めない。

2 美術科

- (1) 実技検査の内容 鉛筆による素描
- (2) 実技検査の時間 90分間
- (3) 持参するもの 鉛筆・消しゴム（練りゴム可）
※画用紙は本校で用意する

3 音楽科

- (1) 実技検査の種目と内容について

次の a 声楽 b ピアノ c 管楽器 d 弦楽器 e 打楽器 のうち1つを選び、それぞれの
①専攻実技 と ②副科実技 を受検する。

	①専攻実技	②副科実技
a 声楽	(a) コンコーネ 50 番（中声用、高声用、低声用のいずれか）の任意の1曲を母音「ア」で歌う。 (b) 日本歌曲、イタリア歌曲、ドイツ歌曲の中から任意の1曲を原語で歌う。	副科ピアノ：任意の1曲を演奏する。
b ピアノ	(a) 次の練習曲の中から任意の1曲を演奏する。 （暗譜、繰り返しなし） ・ツェルニー40番、50番、60番の練習曲から ・クラマー＝ビューロー60の練習曲から ・クレメンティの練習曲から ・モシュコフスキーの練習曲から ・ショパンの練習曲から (b) 自由曲（ソナタの場合は、1楽章又は終楽章。ただし、テンポの遅いものは除く）を1曲演奏する。 （暗譜、繰り返しなし）	聴音：ピアノで数回演奏する8小節程度の簡単な旋律2題を書き取る。

	①専攻実技	②副科実技
c 管楽器	(a) 音階：各楽器に応じて当日指定する。 (調号♯又は♭二つ以内の長調) (b) 任意の1曲を演奏する。(テンポの遅いものを除く)	次の(a)副科ピアノ、(b)視唱のうち、1つを選び受検する。
d 弦楽器	(a) 音階：各楽器に応じて当日指定する。 (調号♯又は♭三つ以内の長調) (b) 任意の1曲を演奏する。(テンポの遅いものを除く)	(a) 副科ピアノ：任意の1曲を演奏する。
e 打楽器	◆小太鼓で受検する者 任意の1曲、又は数曲を演奏する。 (テンポの遅いものを除く)	(b) 視唱：コールキューブンゲン第1巻のNo. 39～No. 45の中から当日指定した1曲を階名で歌う。
	◆マリンバで受検する者 (a) 音階：当日指定する。(調号♯又は♭二つ以内の長調) (b) 任意の1曲、又は数曲を演奏する。(テンポの遅いものを除く)	

(2) その他

- ・声楽の伴奏は本校の担当者が行う。
- ・管楽器はフルート、オーボエ、クラリネット、サクソフォン、ファゴット、ホルン、トランペット、トロンボーン、ユーフォニウム、チューバとする。
- ・弦楽器はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープとする。なお、ヴィオラ専攻者はヴァイオリンでの受検も可能とする。
- ・打楽器は小太鼓又はマリンバとする。
- ・管楽器、弦楽器及び打楽器については、無伴奏で行う。

※ピアノ以外は各自が使用する楽器を持参する。ただし、マリンバ、小太鼓、ハープ、コントラバスについては、本校のものを使用してもよいので、出願時に申し出る。

(3) 出願時における楽譜の提出について

- ・専攻実技及び副科ピアノで演奏する楽曲の楽譜のコピーは、入学願書と併せて出願時に提出する。

※楽譜1枚目の上部余白の左側に欄を作成し、氏名、中学校名を記入して提出すること。
(受検番号は記入しない)

受検番号 (記入しない)	(氏名) 光陵 花子
(中学校名) ○○○立○○○中学校	

4 書道科

(1) 実技検査の内容 毛筆による表現

次のア、イを受検する。

- ア 漢字の書 (楷 書) 半紙に四文字を書く
イ 仮名の書 (ひらがな) //

(2) 実技検査の時間

- ア 漢字の書 (楷 書) 50分間
イ 仮名の書 (ひらがな) 50分間

(3) 持参するもの 書道用具一式

半紙用筆・硯・墨 (墨液やすった墨の持参も可) ・文鎮・下敷・水差し

※検査用半紙及び練習用半紙は、本校で用意する。